

必見！！

任意予防接種のご案内

平成 23 年 4 月から

ヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種費用を
助成します！！

邑南町では平成 23 年 4 月から、現在任意予防接種であるヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種費用について公費による助成を行います。これにより、この 2 つの予防接種については、4 歳まで無料で接種を受けることができます。

定期予防接種のように個別の案内はありませんので、接種を希望される場合は下記の医療機関に直接予約をして受けて下さい。（任意接種のため、法律による接種の努力義務はありません。）

～重要！！ 接種前の注意～

* 対象：邑南町に住所がある生後 2 ヶ月から 4 歳までのお子さん

* 邑南町が接種費用助成を行う医療機関：下記の 4 カ所

☆下記以外の医療機関で接種を受けられた場合は、助成の対象になりませんのでご注意ください。

| 医療機関名 | 電話番号 |
|-------------------------------------|--|
| 公立邑智病院（邑南町中野） | 9 5 - 2 1 1 1 |
| 北広島病院（山県郡北広島町） | 0 8 2 6 - 7 2 - 2 0 5 0 あるいは、 0 1 2 0 - 4 0 - 8 3 7 4 |
| 市立三次中央病院（三次市） | 0 8 2 4 - 6 5 - 0 1 0 1 |
| 島根県立中央病院（出雲市） (ただし、受診等経過観察の必要な方) | 0 8 5 3 - 2 2 - 5 1 1 1 |

* 必ず、電話で事前に予約をして下さい。予約がない場合は、接種が受けられないことがあります。

* 予診票は役場、各支所にありますので、必ず接種前日までに取り寄せて記入をし、当日持って行きましょう。

* 事前に、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン予防接種の説明書を必ず読んでください。

* 接種当日は、予診票と母子健康手帳をご持参下さい。

☆お問い合わせ先：邑南町役場保健課（TEL：83-1123、IP：050-5207-5002）

☆予診票発行：邑南町役場 保健課（瑞穂）
福祉課（石見）
羽須美支所（羽須美）

裏面もご覧下さい→

Q：BCGや三種混合と接種時期が重なるけれど、どうしたらいいの？

- A： ①3ヶ月になったらBCGの接種を受けましょう。
↓そして
②27日以上において、三種混合、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンをどのようなスケジュールで接種するか、医師と相談しましょう。

Q：ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの接種間隔や回数は？

A： 月齢によって接種回数が異なります。下記の表を参考にしてください。詳細は、接種する医療機関の医師と相談しましょう。

ヒブ（インフルエンザ菌b型、Hib）ワクチン予防接種

| 接種開始の時期 | 接種回数と間隔 |
|---------------------------------|---|
| 2か月以降7か月未満から始める場合 (標準的な接種方法) | <p>27日間から 55日間空けて 27日間から 55日間空けて おおむね 1年後</p> |
| 7か月以降12か月未満から始める場合 | <p>27日間から 55日間空けて おおむね 1年後</p> |
| 1歳以降5歳未満の場合 | <p>1回接種する</p> |

小児用 肺炎球菌ワクチン予防接種

| 接種開始の時期 | 接種回数と間隔 |
|---------------------------------|--|
| 2か月以降7か月未満から始める場合 (標準的な接種方法) | <p>27日以上空けて 27日以上空けて 60日以上空けて 1歳以降1歳3ヶ月までの間に</p> |
| 7か月以降12か月未満から始める場合 | <p>27日以上空けて 27日以上空けて 60日以上空けて 1歳以降</p> |
| 1歳以降2歳未満から始める場合 | <p>60日以上空けて</p> |
| 2歳以降5歳未満の場合 | <p>1回接種する</p> |

Q：任意予防接種って？

A： 予防接種は、定期予防接種と任意予防接種に分かれています。

定期接種は、予防接種法に基づいて行われるものです。役場から予診票と案内文を郵送しており、指定医療機関（ポリオ以外）において無料で接種が受けられます。

*** 対象予防接種**

ポリオ、麻しん風しん混合（それぞれ単独も可能）、BCG、日本脳炎、三種混合（ジフテリア、百日咳、破傷風）、二種混合（ジフテリア、破傷風）

任意接種は、定期接種で決められた疾患以外のワクチン接種を受ける場合や、定期でも対象年齢に相当しない場合は、希望者が受ける任意接種となります。通常費用は自己負担です。

- * 例えば：**・ヒブ、肺炎球菌、おたふくかぜ、水ぼうそう、インフルエンザなど
・対象年齢外で接種を受ける場合BCG予防接種を1歳過ぎて接種するなど

ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン予防接種の説明書

☆ヒブ(インフルエンザ菌b型)ワクチン予防接種

- * インフルエンザ菌特にb型(「ヒブ」)は、子どもの細菌性髄膜炎、敗血症、肺炎など命にかかわる病気の原因になったり、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの感染症の原因になる病原菌です。
- * 細菌性髄膜炎とは、脳や脊髄を包んでいる髄膜に細菌が感染して炎症が起こる病気です。
- * 細菌性髄膜炎の原因の半分以上は「ヒブ」によるもので、5歳未満の子どもがかかりやすく、特に生後4ヶ月から1歳までの発病が過半数を占めています。
年間400人が発症し、後遺症が残ることが多いので問題とされています。
- * 細菌性髄膜炎は診断が難しく、症状が急激に悪化することも多く、また治療も難しいため、ワクチンでの予防が大切といわれています。
- * 「ヒブ」は細菌の一種で、インフルエンザの原因となるインフルエンザウイルスと名前は似ていますが、別の病原菌です。

☆小児用肺炎球菌ワクチン予防接種

- * 肺炎球菌は、鼻やのどにいるありふれた菌ですが、風邪などで免疫力が低下したとき等に細菌性髄膜炎、菌血症、副鼻腔炎、中耳炎といった病気の原因になる病原菌です。
- * 肺炎球菌による髄膜炎での死亡や後遺症が残る割合は、「ヒブ」による髄膜炎よりも高いといわれています。
- * 「ヒブ」と同様、1歳までの子どもの発病が高いため、予防接種で予防することが大切です。

☆副反応について

接種部位の発赤、腫れ、しこりや発熱などの症状が認められる場合がありますが、おおむね短期間で軽快します。

- * 平成23年3月に、両ワクチンは一時接種見合わせとなっていました。その後、専門家の会議において、死亡事例とワクチン接種との間に現時点では直接的な明確な因果関係は認められないとの評価がなされ、4月から再開となりました。

健康被害救済制度について

ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンは、予防接種法に基づかない任意の予防接種です。説明文をよく読み、効果と副反応をご理解いただき医師と相談した上で接種を受けて下さい。万が一、これら2つの予防接種によって引き起こされた副反応により健康被害が生じた場合は、「独立行政法人 医薬品医療機器総合機構」による補償を受けることができます。

☆お問い合わせ先: 邑南町役場保健課(TEL: 83-1123、IP: 050-5207-5002)

